

1年次セミナープロジェクト

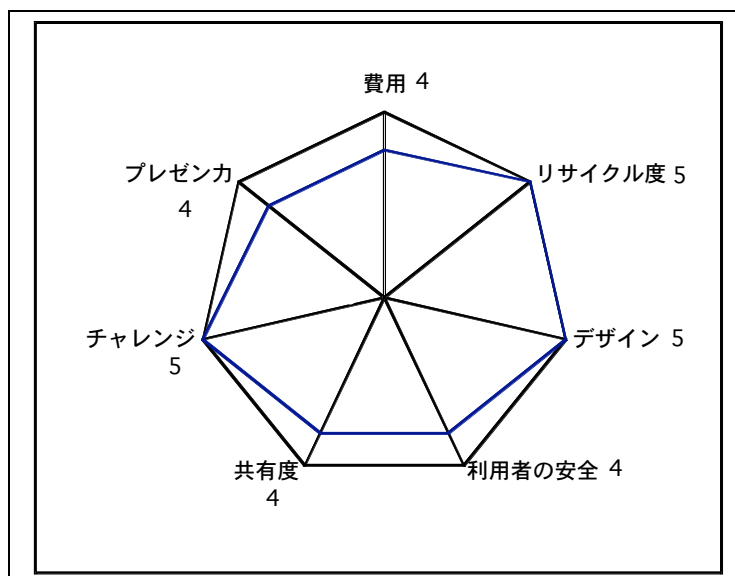
課題：幼稚園または小学校低学年を対象にした遊具／おもちゃの作成
(作品サイズは、1m×1m 以内)

プロジェクト名：にこにこカレンダー☆

対象年齢： 3歳～8歳 (小学校低学年くらいをメインとする。)

評価規準：1-5 で評価

- 費用
- リサイクル度
- デザイン
- チャレンジ (計画と準備の緻密さ)
- 利用者の安全
- 共有度
- プレゼンカ (各クラスでのプレゼン)



スケジュール概要

日付	担当責任者 (各作業の責任者)	スケジュール
10/10	リーダー	<ul style="list-style-type: none"> ● 各メンバーは、○日までにチーム作業に必要な行程をリーダーに提出する。 ● 今後の連絡先などの交換。 ● どんなプロジェクトにしたいか、各自でブレインストーミングし、アイデアを出しまくる。
10/21	下川	<ul style="list-style-type: none"> ● 15回目のファイナルまでの計画をグループで立てる。 ● 作るおもちゃの主なデザインを考える。 ● 作る際に必要な材料を考える。 ● 作ったおもちゃで、こどもがどんなことを学べるか考える。
10/23	全員	<ul style="list-style-type: none"> ● 先生からのアドバイスを参考に、おもちゃの安全性について話し合う。 ● 改善する箇所をまとめる ● 具体的なおもちゃのサイズ、デザインを決める。作業開始。
10/24	酒森	<ul style="list-style-type: none"> ● この日までにカードを仕上げる。 ● 枠のまわりのスペースや吹き出しにどんなことを書くか決める。→次回、書いたものをどんどん貼る。
10/29	太田	<ul style="list-style-type: none"> ● この日までにポケットを仕上げる。 ● 段ボールに日付・曜日の枠を設置。 ● 枠まわりを飾る。(仕上げ作業)
10/31	渡辺	<ul style="list-style-type: none"> ● 土台の装飾の完成 (ポケットを土台に装着)
11/5	下川	<ul style="list-style-type: none"> ● プレゼンの準備。 ● 土台の補強。(ガムテープで土台を補強。) ● 裏面のデザインについて話し合い。
11/14	酒森	<ul style="list-style-type: none"> ● 裏面を制作。 ● プレゼンの準備。
11/18	太田	<ul style="list-style-type: none"> ● 幼稚園児に実際に遊ばせる。

		● 遊ばせたことで、わかったこと・反省点の話し合い。
11/19	渡辺	● 作品の改善。(ポケットに数字をつけるなど) ● プレゼン用に使用する小道具の作成。 ● プレゼンの練習。
11/20	全員	● プレゼンの練習。(本番を想定して)
11/21	全員	● プレゼン当日。
11/28	酒森	● スタンドの作成について話し合い。
12/3	太田	● スタンドの作成。
12/31	全員	● フォーマットの書き込み
1/14	渡辺	● フォーマット作成・完成
1/15	下川	● 最終プレゼンの練習・1/16のプレゼンの練習
1/16	全員	● 6組でプレゼン発表・フォーマット提出
1/22	全員	● 最終プレゼンの練習
1/23	全員	● 最終プレゼン

1. 費用

計画：必要な資材の予測

項目	予想金額 or リサイクル	予想調達先
段ボール	リサイクル	学校付近のスーパー
お菓子の箱×18	2160 円(120×18)	各自の自宅
肉・魚などのトレー(5 枚程度)	2000 円(400×5)	各自の自宅から近いスーパー or コンビニ
ペットボトルのふた(2 つ)	200 円(100 円×2)	各自の自宅
画用紙	400 円	各自の自宅
色紙	100 円	各自の自宅
布・フェルト	2000 円	各自の自宅
ガムテープ	100 円	各自の自宅
カラーテープ	400 円	各自の自宅
ヒモ	100 円	各自の自宅
鈴	100 円	各自の自宅
マジックテープ	100 円	各自の自宅

調査：調達先別の資材比較

項目	実際価格 or リサイクル	調達先
段ボール	リサイクル	学校付近のスーパー
お菓子の箱×18	リサイクル	各自の自宅(なければスーパーで購入)
肉・魚などのトレー	リサイクル	各自の自宅 or 各自の近所のスーパー等
ペットボトルのふた	リサイクル	各自の自宅
画用紙・色紙	持ち寄り	各自の自宅 (足りなければ購入)
布・フェルト	持ち寄り	各自の自宅 (足りなければ購入)
ガムテープ	持ち寄り	各自の自宅
ヒモ	持ち寄り	各自の自宅
カラーテープ	持ち寄り	各自の自宅 or 購入
鈴	持ち寄り	各自の自宅
マジックテープ	持ち寄り	各自の自宅 (足りなければ購入)

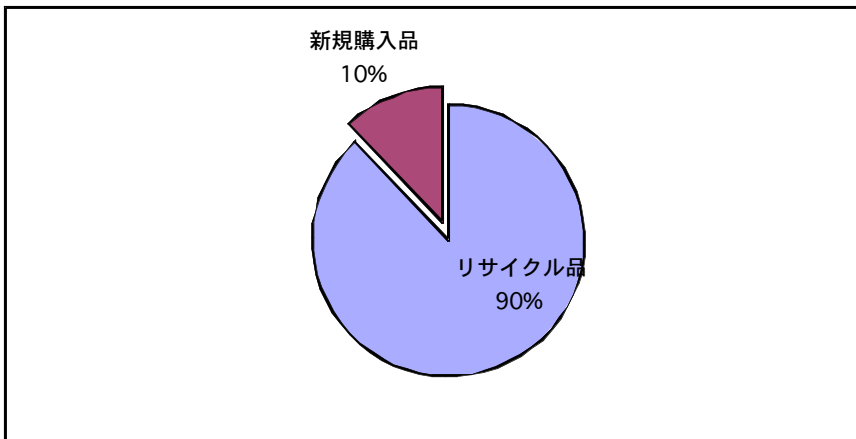
実行：最終資材

項目	実際価格 or リサイクル	調達先
段ボール	リサイクル	学校付近のスーパー
お菓子箱×18	リサイクル	各自の自宅
肉・魚のトレイ	リサイクル	各自の自宅
ペットボトルのふた	リサイクル	各自の自宅
画用紙	持ち寄り+購入(300円)	各自の自宅+玉川学園購買部
色紙	持ち寄り	各自の自宅
布・フェルト	持ち寄り	各自の自宅
ガムテープ	持ち寄り	各自の自宅
カラーテープ	持ち寄り+購入(300円)	各自の自宅+100円均一
ヒモ	持ち寄り	各自の自宅
鈴	持ち寄り	各自の自宅
マジックテープ	リサイクル+購入(200円)	100円均一
花紙	購入(200円)	文房具店

*もしも全て資材を購入した場合の金額：約 8000 円


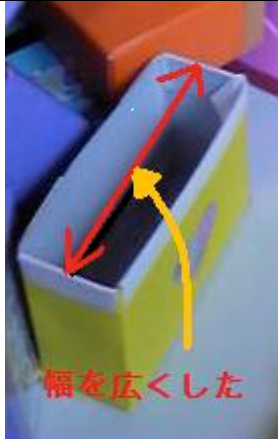
総費用： 約 1,000 円

2. リサイクル度 (割合で表示)



3. デザイン

資料（文献、インターネット情報、専門家からの伝授）など、最終デザインに行き着くまでのデザインの変容と修正理由などを残しておく）

日付	変更前デザイン	改善後のデザイン
10/23	 <p>小さい! ゆきだるま</p> <p>カードのポケットが小さかったため、カードも小さくなってしまい、子どもの口に入るサイズになっていた。</p>	 <p>幅を広くした</p> <p>箱のサイズを大きくし、それに合わせカードも</p>

<p>11/19</p>  <p>小さな子どもは、カードをしまう位置がわからなくなってしまう。</p>		<p>少し大きく作成した。</p>  <p>カードポケットに数字をつけ、どこにカードをしまうかわかりやすくした。</p>
--	--	--

4. チャレンジ

改善点：

日付	改善前（どこに、どんな改善が必要か）	改善後（どう改善したか）
10/23	<p>① カードポケットのおもちゃの箱が小さいため、カードも小さくなってしまう。⇒子どもがカードを口に入れてしまう可能性があるためポケットを大きくする必要がある。</p> <p>② カードが紙で出来ているので、そのままだと手を切ってしまう危険がある。</p>	<p>①カードポケットの箱を少し大きめにし、カードのサイズも大きめに設定した。</p> <p>② カードの周りをテープで囲んだ。</p>
10/29	<p>曜日の部分が平らで目立たない。子供の興味を引けるよう材料・色を工夫する必要がある。</p>	<p>① りんごのケースを使用し、立体的にして手ざわりも楽しめるように工夫。</p> <p>② 色も塗り、見やすく。</p> <p>③ 新聞紙を中につめ、強度を高めた</p>
11/19	<p>～実際に子供に遊ばせてみて～</p> <p>①対象年齢にあっていない。 ⇒3歳児は数字を読めないため、収納の際にカレンダーの意味がなくなってしまう。箱にも数字を書きどこにしまうかまでわかるようにさせる必要がある。</p> <p>②カードの量が多すぎる。(3歳児は手元のカードに集中してしまう傾向がみえた。年齢にあわせてカードの枚数をへらす。)</p> <p>③カードを同じ数字がなければ元の位置に戻すことが出来ない。</p>	<p>①カレンダーの箱にマジックテープを利用し数字をつける。(毎月、数字の場所がずれるため、マジックテープを使用した。)</p> <p>②年齢に合わせてルールを変える。(例：3歳の場合は10枚のカードで行うなど。)主に3～5歳児をメインに考えたが5～7歳児を対象年齢とする。</p> <p>③土台の方にマジックテープで小さな数字をつけて、同じ数字の場所にカードをしまうことができるように改善した。</p>
11/28	<p>～スタンドの作成～ 牛乳パックを使用→土台の重みに耐えられない。強度がない。</p>	<p>10のペットボトルを使用。→中に重りとして、ビー玉を入れたことで土台が安定。</p>

5. チームワーク :

チームプロジェクトから学んだこと	チームプロジェクトで苦労したこと
<p>渡邊：このチームプロジェクトを行う中で4人が協力しなければよりよいものが出来ないということが学びました。1人だけが頑張ってもそこにはチームの共有がなく、互いに意見を出し合って全員が同じものを考え、感じ取りながら行うことで素晴らしいものが出来るのであると感じました。よってこのような作業において、チームの協力は大切なものであると学びました。</p>	<p>おもちゃを作っていく中で様々な問題点が浮かび上がり、その問題点ひとつひとつ解決しながら進めていくため、スムーズに進まず大変でした。また、作業の進み方の共有や講義がある中での作業のために時間が合わないことがありそろって作業とすることが出来なかったことが苦労した点です。</p>
<p>下川：チームプロジェクトの最大の利点は、そのチームのメンバーの数だけ可能性が広がることにあると思います。個人では思いつかないようなアイデアが話し合うことで沢山出てきて、それぞれの良いところを組み合わせ、一つの作品を仕上げる事が出来ます。 そしてその為には ①きちんと段取りを組むこと ②全員が協力し合うこと が重要であるということも学びました。</p>	<p>自分だけではなくチームでの作業なので、話し合いでの意見を一つにまとめること、そしてメンバー全員が同じ情報（作業状況）を共有するためにまめに連絡を取り合うことが思っていた以上に大変でした。また、作業を重ねるごとに次々と改善点が出てきたので、なかなかスケジュール通り作業が進まなかったことが苦労した点です。</p>
<p>酒森：このプロジェクトを通して、1人だけが頑張っても良い作品は作り出せないということが一番強く感じました。意見の出し合いをし、試行錯誤しながらも作品を作り終えたときにはチームのメンバーと達成感や感動を共にわかちあえることができました。チームプロジェクトに「協力すること」は必要不可欠であると学びました。</p>	<p>実際におもちゃを作り始めてみると、想像していたようにはうまく進まず、改善することがたくさんできました。小さな改善点の連絡ひとつでも忘れると、メンバー同士の中でも誤解生じます。このように個人個人のスケジュールが違うので、4人で一緒に作業をする時間があまりとれなかったことが苦労した点だと思いました。</p>
<p>太田：チームプロジェクトを通して、作業を分担することで、自分の得意な分野・それぞれの個性が活かされて、4人だから生まれる新たなアイデアがたくさんありました。このことを通して1人ではなく、チームで協力することで、新たな考え方が生まれ、良い刺激を受けました。そのためしっかりと話し合うことが大切だということも学びました。</p>	<p>チームプロジェクトということで、自分だけの意見ではいけないため、4人全員が揃う時間があまりなかったことが1番苦労した点でした。 あとは、限られた時間で製作をするため、最初の頃は自分に何が出来るのかわからず、完成までのめどがたたずに苦労しました。</p>

6. 利用者の安全

安全管理：予測可能なリスクを列挙し、そのためにどのような対策を練っているか書く。

想定できるリスク	リスク回避の方法	具体的に用意するもの（安全マニュアルなど）
幼児がカードを口にいれてしまう	カードが口に入らないよう少し大きめに設定。	大きめのカードポケットの箱を準備
段ボールの端でケガしてしまう	段ボールの角はまるくきり、周りにはガムテープやカラーテープでまく。また、綿など柔らかい素材のものを装着する。	ガムテープ、綿やフェルト生地、布
カードのまわりで指を切ってしまう	カードをさわる時に、カードのまわりで指を切ってしまう危険があるため、周りをテープで囲う。	カラーテープ
箱の取り入れる部	カードを入れる時に、箱の切れ	カラーテープ

分で指を切っ てしま	目で指を切ら ないように、 周りをテープ で囲う。	
---------------	------------------------------------	--

7. 共有度

(どのような遊び展開が可能か？何人一人までが利用できるか？どのような遊びを提案できるか？)

- ポケットからカードを取り出して、神経衰弱で絵合わせ（絵には動物や花などを書き、簡単な説明もつける。）
- 神経衰弱で遊び終わったら、元の位置へお片付け。
- 日付（数字）や月や曜日の仕組みも学べる。→カレンダーとしても使用可能。
- 1人～4、5人程度で遊ぶのが目安。
- 数字・カードの絵の部分はフェルトを使用し柔らかく、さらに立体なので手触りも楽しめるようにする。
- カードポケットの箱の周りには柔らかい布やプチプチなど、素材を工夫する。
- 目の見えない子にも楽しめるように、鈴をつけて、音がなるようにする。
- 使用者全員が目で見ただけでも楽しめるように、カラフルな色使いにする。

8. プレゼン力

報告計画：クラスでの報告、または担任への個別報告した内容と担任からの指導内容など

日時	報告担当者 (1人1回は報告)	報告内容（進行状況、課題、課題解決の方法案、今後の予定など）	担任からのアドバイスなど
10/21	下川	<ul style="list-style-type: none"> ・作品作成計画をたてる ・大まかなデザインに決定 ・おもちゃがこどもに与える影響 	<p>目の見えない子どもにも楽しんでもらう為、カードポケットに鈴などを付け、音がなるようにする。</p> <p>カードポケットの素材を工夫する。</p>
10/24	酒森	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の改善をした箇所 ・おもちゃの安全性 ・デザイン (フォーマット提出) 	この時特に指導されたことはありません。
11/15	太田	<ul style="list-style-type: none"> ・作品を実際にこどもに遊ばせることについて ・プレゼンを行う場所について 	<ul style="list-style-type: none"> ・11/18に先生の協力のもとに幼稚部の子供に遊んでもらえる機会を設けることができた。(注意：限られた時間を有効的に使う。手作りの手土産の用意。) ・プレゼンの場所は後日相談。
11/19	酒森・太田	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンの内容について 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊び方を実践してみる(小さな段ボールを用意し、プレゼンをしやすいようにする。) ・対象年齢を設定してプレゼンを行うことが可能。(その代わりに、あらかじめ『〇〇対象にプレゼンします』と言うこと。) ・実際に遊ばせたことをしっかりと発表すること。
11/21	渡辺・下川・酒森・太田	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼン当日 	<ul style="list-style-type: none"> ・最終プレゼンまでに収納を工夫する ・論理的根拠に基づいた発表にすること